

世界とつながり活躍する次代のリーダー育成

～中高一貫教育校の特色を活かした教育活動を通じて～
千葉県立千葉中学校

1 学校概要

本校は県内初の県立中学校として、平成20年に開校しました。また、JR外房線・内房線本千葉駅の東方約1キロに位置し、近くには県立青葉の森公園があるなど自然豊かな環境に恵まれています。各学年80人、計240人の生徒は、朗らかで、優しく、常に勉学に励んでいます。新入生入学時の鴨川オリエンテーション合宿、2学年時の関西修学旅行、3学年時のポストン海外異文化研修（希望制）など、多彩な校外行事を行っています。

2 特色を活かした教育活動

今回は、中高一貫教育校としての6年間に渡る教育活動の中でも、中学校の3年間に焦点をあてて紹介します。

○「学び編」（本校の多種多様な学びの場を紹介）

探求的な活動として総合学習の時間は、1年次から「ゼミ」活動を行っています。生徒自身が年間の研究テーマを設定し、1、2年生の異学年小グループで研究活動や千葉中アカデミアと題した発表会を実施しています。

3年次では3年間の集大成として、「卒業論文」を整え、「卒論発表会」を実施します。こうした3年間の学びの過程を経て、千葉高等学校での千葉高ノーベル賞の取り組みへと繋がっていきます。



「ゼミ」活動の様子

千葉大学医学部の先生方と連携した「理科特別授業」や新聞記者の方と連携した「言葉の授業」など、外部機関と共同した授業づくりも本校が大切にしていることの一つです。

また、令和2年度から研究指定をいただいている英語学習ソフトの取り組みについては、感染症拡大防止によって言語活動、中でも表現や発話などの学習活動が従前のように実施できない時期には大変効果的でした。その様子は朝日新聞に掲載され、またNHKテレビでも放映されるなど、コロナ禍における新しい学習の形の1つとして、大きな反響を呼びました。

○「行事編」

9月の合同文化祭「千秋祭」、そして、10月の中高合同体育大会の様子についてお伝えしました。中でも中高合同体育大会では、令和2年度の部分合同開催から、令和3年度は会場を県立青葉の森陸上競技場に移し、中高生約1,200人で実施しました。当日は感染症対策のために、実行委員の生徒と共に多くの職員が役割につき、安心・安全な大会運営を行いました。



「中高合同体育大会」の様子

3 終わりに

千葉中高における6年間は、さまざまな価値観や異年齢の他者と関わり、協同しながら学校生活を送ることによって、学力を高め、豊かな人間力を培い、自身の可能性を引き出す挑戦の期間です。日々の挑戦の中で、生徒はかけがえのない他者との関わりに大きな価値を見出します。それは校内に留まらず、地域でのボランティア活動や海外留学生との交流を通じて、その視野は外へ外へと広まりを見せています。

本校は、これからも地域の方々や保護者、関係諸機関と連携協同しながら、世界とつながり活躍する次代のリーダー育成を目指し、教育活動をさらに工夫し、積極的に取り組んでいきます。